



日

棚田

数千年の時を超えアートが息づく町



新潟市や三条市などとともに日本遺産「『なんだ、コレは!』信濃川流域の火焰型土器と雪国の文化」に認定された新潟県十日町市。縄文の昔から人々が暮らし、約5000年前の火焰型土器などが多数発掘されています。そして今、現代アートの町としても注目を集めています。

本の源流再発見

File 14 新潟県十日町市

時空を超えた自然とアートとの融合

十日町市は新潟県南部に位置する日本有数の豪雪地帯です。市の中央部を総延長約367kmにも及ぶ日本一長い信濃川が流れ、古くから人々の暮らしを支えてきました。日本遺産「『なんだ、コレは!』信濃川流域の火焰型土器と雪国の文化」に認定された新潟県の信濃川流域の地域では、火焰型土器



越後妻有里山現代美術館 [キナーレ]

が出土しています。なかでも十日町市の笹山遺跡は、縄文時代中・後期の大規模な集落跡で、そこから出土した火焰型土器を含む土製品類、石器類など計928点が、1999年新潟県笹山遺跡出土深鉢形土器として国宝に指定されました。これらは、十日町市博物館で越後縮や雪国の暮らしに関する用具などとともに展示されています。博物館は現在建て替え計画が進んでおり、2020年にはリニューアルする予定です。

日本遺産のタイトル「『なんだ、コレは!』」は、芸術家の岡本太郎氏が火焰型土器に驚いて叫んだときの言葉から取ら



美人林

れており、実物を見るとその芸術性の高さには驚かされます。

十日町市の名物は、火焰型土器だけではありません。2000年から3年に一度「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」が開催されており、国内外から多くの人が訪れ、2015年は、約51万人の人々が来訪しました。2018年は、



▲ まつだい「農舞台」(屋外アート作品「棚田」)

イリヤ&エミリア・カバコフ作。農舞台のテラスから望むと、伝統的な稲作の情景を詠んだ文字の奥に、農作業をする人々の姿をかたどった彫刻を配置した棚田が重なって見えます



▲ 笹山遺跡

国宝の火焰型土器のほか、13基の竪穴住居跡などが出土した縄文時代の集落跡。現在は竪穴住居2棟が復元され、広場になっています



▲ 越後妻有里山現代美術館 [キナーレ] (アート作品「Oin□」)

マッシュモ・バルトリーニ feat. ロレンツォ・ピニ作。キナーレ内のレストラン「越後しなのがわバル」を彩るアート作品。天井の円盤は信濃川の水面の光、球状の照明は雲を表しています



▲ 十日町市博物館 (火焰型土器)

十日町市博物館に所蔵されている国宝のうち、No.6の火焰型土器。常時火焰型土器が見られます(展示替えあり)

7月29日から9月17日に開催されます。

越後妻有とは、十日町市と隣の津南町を合わせた地域のことをいい、芸術祭の開催時には、このエリアのあちらこちらに作品が展示されます。過去に展示された屋外作品の多くは、市内随所に残っており、十日町市の魅力である豊かな自然と里山を背景に一つの風景として楽しむことができます。

十日町市の現代アートの中心となる施設が、博物館からも近い市内中心部にある「越後妻有里山現代美術館[キナーレ]」。ここには過去の出展作品が展示されています。また、山間部の松

代地区にはまつだい雪国農耕文化村センター「農舞台」があり、ここでもアートを楽しめます。キナーレ、農舞台とも、地域の食材を使ったレストランやアートショップが併設されています。さらに山間部のそこかしこに広がる棚田や、立ち姿の美しいブナの木が生い茂る「美人林」なども目を楽しませてくれます。

ココに注目

松之山温泉の名物、小島屋製菓店の「志んこ餅」は、やわらかくてコシのあるお餅とまるやかなこし餡がやみつきになる逸品です。



日立グループ事業所紹介

今回訪れた新潟県には株式会社日立ニコトランスミッション 加茂事業所があります。同事業所は、小型マリンギアを主体とした船用製品と、鉄道車両・建設機械・産業車両などに搭載されるトランスミッションなどを生産しています。

株式会社日立ニコトランスミッション 加茂事業所
http://www.hitachi-nico.jp/

新潟県加茂市大字下条戊405番地